

柿本議員（民主県政会）

令和5年12月12日

教育長 答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問）閉校を迎える学校への関わり方や少人数学校の課題と可能性について

教育委員会として閉校を迎える学校に対し、閉校までの間、どのように関わってきたのか、また、閉校に向けて段階的に教員・生徒が少なくなる中で見えてきた少人数の学校における課題や可能性について、どのように考えたのか、併せて教育長に伺う。

（答）

安芸高等学校は今年度末に閉校を控え、現在は3学年60名が在籍しております。

教育委員会といたしましては、これまで、総合学科として、多様な教科・科目を実施するため、教員の加配などの人的支援を行い、教育の充実を図ってきたところでございます。

また、学校の困りごとを丁寧に聴き取り、事務職員についても加配を行うとともに、事務局からの職員の派遣や、予算措置などを通じて、学校と緊密に連携を図りながら円滑な閉校に向けた支援も行っているところでございます。

次に、段階的に教員や生徒数が少なくなる中で見えてきた課題につきましては、例えば、体育祭や文化祭などの学校行事においては、異学年の生徒などと協力・協働しながら活動する場面が必要となりますが、学校だけでは、その実現が困難となります。

そうした中で、10月に行われた体育大会では、生徒の倍以上の人数の保護者や地域の方々が競技に参加し、盛り上げてくださったり、運営に御協力をいただきました。

こうしたことは、生徒の一層の成長につながっただけでなく、家族や地域の方に改めて感謝する機会となり、生涯忘れられない、かけがえのない思い出となったと伺っており、大変貴重な経験だったと考えております。

閉校まで残り4か月を切りましたが、教育委員会といたしましては、閉校する学校に在籍する全ての生徒が卒業するまでの間、充実した学校生活を送り、それぞれが希望する進路を実現できるよう、引き続き学校と緊密に連携を図りながら全力で支援してまいります。